



令和 7 年 度
A 個 別 方 式

数 学

注 意

1. この冊子は開始の合図があるまで開かないこと。
 - この冊子には問題と計算用紙がある。
 - 計算用紙の一部はこの冊子から取りはずすことができる。
2. 解答時間は 60 分間である。
3. 試験開始の合図があったら、この冊子が 1 ページから 10 ページまでそろっていることと、取りはずしの計算用紙があることを確かめ、不備の場合は着席したまま手を挙げること。
4. 問題 1 から 8 のうち 1 と 8 は必須問題、2 から 7 は選択問題である。
2 と 3 から 1 つ、4 と 5 から 1 つ、6 と 7 から 1 つ選んで解答し、解答用紙では選んだ問題の番号を○で囲むこと。
5. 解答はすべて解答用紙の所定欄に記入すること。
6. 解答に無関係な語句や記号を書いたり、落書などのある解答用紙は無効とする。
7. 解答用紙には、必ず受験番号と氏名を記入すること。
8. 試験終了後、この冊子は持ち帰りなさい。

数 学

問題1から8のうち1と8は必須問題，2から7は選択問題である。

2と3から1つ，4と5から1つ，6と7から1つ選んで解答し，解答用紙では選んだ問題の番号を○で囲むこと。問題8の(4)以外は，空欄 ～ を適切に埋める問題である。解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入すること。

1. (1) 多項式 $4x^3 + 4x^2 - 8x + 28$ を $2x^2 - 3x + 4$ で割ると，商は であり，余りは である。

(2) 関数 $y = 4^x - 2^{x+2} + 9$ は， $x =$ のとき最小値 をとる。

(3) $0 \leq \theta \leq 2\pi$ において，関数 $y = 2 \sin \frac{2\theta}{3}$ の最大値は であり，最小値は である。

(4) $5 \log_3 6 = 5 + \log_3$ と $3^3 = 27 <$ $< 81 = 3^4$ を用いると， $5 \log_3 6$ の整数部分は8であることがわかる。また， $2 \log_3 48 + \log_9 144$ の整数部分は である。

(5) 2つの実数 a, b について，3つの条件 p, q, r を次のように定める。

$$p: a > 1 \text{ かつ } b > 1$$

$$q: a^2 + b^2 > 3$$

$$r: (a - 1)(b - 1) > 0$$

このとき， p は q であるための 。 p は r であるための 。

ただし， と では，当てはまるものを次の①～④からそれぞれ1つずつ選び，記号で答えること。

- ① 必要十分条件である
- ② 必要条件であるが，十分条件ではない
- ③ 十分条件であるが，必要条件ではない
- ④ 必要条件でも十分条件でもない

計 算 用 紙

問題2と3から1つ選んで解答すること。

2. 数列 $\{a_n\}$ は初項 26, 公差 -4 の等差数列であるとし, 初項から第 n 項までの和を S_n とおく。このとき, $a_8 = \boxed{\text{サ}}$ であり, $S_n = 0$ を満たす自然数 n は $n = \boxed{\text{シ}}$ である。

3. 2次関数 $f(x) = ax^2 + bx + c$ は次の3つの条件 (i), (ii), (iii) をすべて満たすとする。ただし, a, b, c は定数である。

(i) すべての実数 x に対して, 不等式 $f(x) \leq 50$ が成り立つ。

(ii) $1 \leq x \leq 3$ において, $f(x)$ の最大値は 6 であり, 最小値は -18 である。

(iii) $-4 \leq x \leq -3$ において, $f(x)$ の最大値は 6 である。

このとき, $a = \boxed{\text{サ}}$ であり, 放物線 $y = f(x)$ の頂点の y 座標は $\boxed{\text{シ}}$ である。

計 算 用 紙

問題4と5から1つ選んで解答すること。

4. 座標平面において、方程式 $y = \frac{1}{2}x + 2$ で定まる直線 l と点 $A(1, 5)$ に対して、

次の2つの条件 (i) と (ii) を満たすように点 B をとる。

(i) 直線 AB は直線 l に垂直である。

(ii) 直線 AB と直線 l の交点を P とするとき、 P は線分 AB を $1:2$ に内分する。

(1) ベクトル $\vec{c} = (1, \boxed{\text{ス}})$ は \overrightarrow{AB} に平行である。

(2) (1) の \vec{c} を用いると、 $\overrightarrow{AB} = \boxed{\text{セ}} \vec{c}$ が成り立つ。

(3) 原点を O とするとき、 \overrightarrow{OB} を成分で表すと $\overrightarrow{OB} = \boxed{\text{ソ}}$ である。

5. 座標平面において、方程式 $y = \frac{1}{2}x + 2$ で定まる直線 l と点 $A(1, 5)$ に対して、

次の2つの条件 (i) と (ii) を満たすように点 B をとる。

(i) 直線 AB は直線 l に垂直である。

(ii) 直線 AB と直線 l の交点を P とするとき、 P は線分 AB を $1:2$ に内分する。

(1) 直線 AB の方程式は $y = \boxed{\text{ス}}$ である。

(2) $AP = \boxed{\text{セ}}$

(3) B の座標は $\boxed{\text{ソ}}$ である。

計 算 用 紙

問題6と7から1つ選んで解答すること。

6. 1個のさいころを3回続けて投げて、出た目が順に a, b, c であるとし、 a を百の位、 b を十の位、 c を一の位とする3桁の自然数を n とする。

(1) n が5の倍数である確率は である。

(2) n が15の倍数であるならば、 $a+b$ を3で割った余りは である。

(3) n が15の倍数である確率は である。

7. 三角形がもつ次の2つの性質を余弦定理により証明してみよう。

性質1 「2辺の長さの和は、残りの辺の長さより大きい」

性質2 「2辺の大小関係は、その向かい合う角の大小関係に一致する」

三角形ABCにおいて、 $BC = a$, $CA = b$, $AB = c$ とする。 $0 < C < \pi$ より $\cos C > -1$ であるから、余弦定理を用いると

$$c^2 = a^2 + b^2 - 2ab \cos C < a^2 + b^2 - 2ab \times (-1) = (a+b)^2$$

が成り立つ。 $c > 0$, $a+b > 0$ より $c < a+b$ となり、性質1が残りの辺をABとした場合に導かれる。

次に性質2の証明のために、余弦定理を用いて $\cos A$ と $\cos B$ を a, b, c の式で表し、 $\cos B - \cos A$ を計算すると

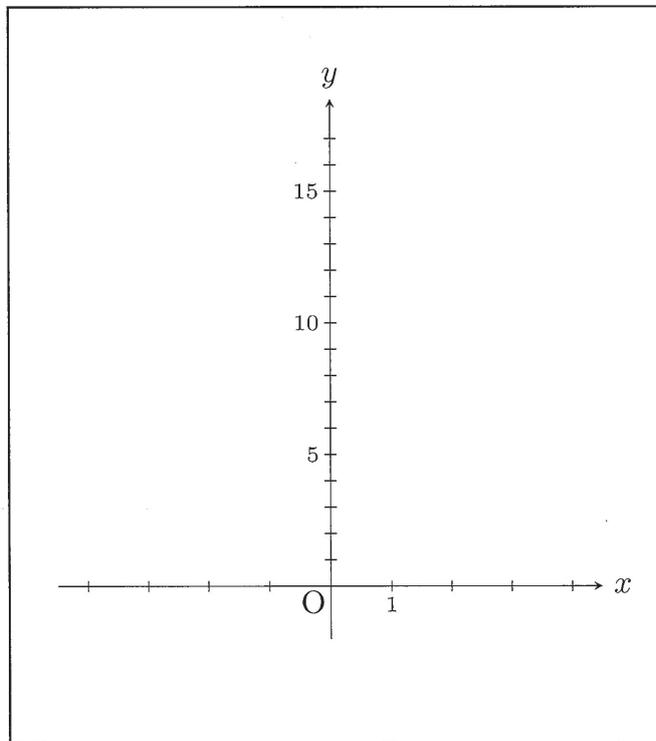
$$\cos B - \cos A = \frac{(a+b+c) \left(\text{タ} \right) \left(\text{チ} \right)}{2abc}$$

となる。ここで、 $a+b+c > 0$, $2abc > 0$ であり、性質1により > 0 であるから、 $\cos B - \cos A$ と は同符号になるか、または、ともに0になる。このことと、 $0 < \theta < \pi$ の範囲で θ の値が増加すると、 $\cos \theta$ の値が することから、性質2が2辺BC, CAとその向かい合う角に対して導かれる。

計 算 用 紙

8. 座標平面において、放物線 $y = -x^2 + 16$ を C_1 、放物線 $y = 2x^2 - 6x + 7$ を C_2 とし、 C_1 と C_2 の2つの共有点を x 座標が小さい方から順に A, B とする。

- (1) B の座標は である。
- (2) C_1 の接線で直線 AB に平行なもの方程式は $y =$ である。
- (3) C_1 と C_2 で囲まれた部分の面積は である。
- (4) C_1 と C_2 で囲まれた部分を図示せよ。



下書き用

計 算 用 紙